

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 26 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2011～2014

課題番号：23251023

研究課題名 (和文) 環太平洋地域における移住者コミュニティの動態の比較研究 近年の変遷に注目して

研究課題名 (英文) Comparative studies on immigrants' communities in the Pacific Rim Area: Focusing on contemporary changes

研究代表者

栗田 和明 (KURITA, KAZUAKI)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：10257157

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 20,300,000 円

研究成果の概要 (和文) : 環太平洋地域では種々の移民コミュニティが形成されている。華人や在外インド人のコミュニティだけでなく、日本人、東南アジア各地から発した人々、東南アジアにやってきたアフリカ人もみられる。また、華人についても種々の人々が多様な社会を形成している。

本研究では同地域の移民コミュニティの多様さ、近年の変化の大きさについて、具体的な事例研究に基づいて提示した。コミュニティの大きな変化と多数の移動する者を支える背景として、交通、運搬、通信、送金の便が向上したことが挙げられた。また、長期間居住する移住者ではなく、短期間の滞在を頻繁に繰り返す「頻繁な移動者」に注目したコミュニティの描写への試みがされた。

研究成果の概要 (英文) : We can find many immigrants' communities in Pacific Rim area. Here, not only major migrants such as ethnic Chinese and oversea Indians, but Japanese, southeastern Asian origin peoples in US, and Africans in Asia. Even in the case of Chinese and Indians, their communities have a vast variety.

This project presented varieties of immigrants' community in this area, and rapid changes after 2001. These rapid changes and volume of immigrants are supported by improvement of transportation, world wide communication, and money transfer. We also tried to describe immigrants' community not from viewpoint of residents but from frequent travellers.

研究分野：文化人類学

キーワード：移民 環太平洋地域 コミュニティ 華人 頻繁な移動者 近年の変化

1. 研究開始当初の背景

社会学、経済学、文化人類学、国際関係論、地域研究などの多数の視点から移民研究は進められてきた。日本人のブラジル移民は移民百年をむかえた事象であり、ブラジル移民やアメリカへの移民の研究には多数の研究者が携わり、日本移民学会も歴史を刻んでいる。わが国では、日本人移民以外にも、華人、インド系住民、およびトルコ系住民を中心に研究がすすめられた。とくに華人の場合は中国の故地から第一次の目的地へ、さらに第二次、第三次の目的地まで追跡するような研究も見られている。

こうした移民の動きは植民地政策や第二次世界大戦の結果を受けた20世紀末までのものである。2000年以降、人々の移動に大きな変化を与えるあらたな要因が以下のように認められる。

1) 中国が経済力をまし多方面での中心地になった。事実、中国へ流入する移民も、中国人があらたに中国製の製品を携えて国外に出て行く事例も観察される。

2) 携帯電話をはじめとする通信機器の発達によって、遠隔地間でも同一地域内においても、人々の情報交換、送金体制、物資の運搬の様相に変化が見られる。携帯電話のSIMカードを取り替えながら、東南アジアの数カ国とアフリカ諸国を移動しながら交易する商人の姿は珍しいものではなくなっている。

3) アフリカ = 中国の往復が1000ドル以下など、航空運賃の劇的な低下によって、国際的な人の移動の経済的な障壁が下がった。航空会社によっては75キロの手荷物まで無料で運び、商品のみずから運ぶ交易人を積極的に取り込もうとしている。

各国の移民政策や経済政策の変化以上に1)~3)の要因は大きな影響力をもち、従来からの華人やインド系の移民だけでなく、アフリカ各地からの交易人などがあらたな登場人物となっている。こうした最近10年間の動向に焦点をあてた研究が必要であろう。

本研究の代表者・分担者はそれぞれ個別の移民社会での研究をすすめてきた(業績

覧参照)。これらの研究者で環太平洋地域の複数の移民社会を分担調査し、近年の事象を点検しつつ、相互の比較研究をすべく本研究を実施した。

2. 研究の目的

本研究では環太平洋地域に見られる7つの移民社会をとりあげ、その2000年以降における動態を比較研究する。環太平洋地域には多様な移民集団が存在する。移動の年代、要因、故地と目的地の関係、移民社会の形態などは相互に異なり、複数の対照軸を設定して比較研究を進めることができる。一方でこれらの移民社会は、中間集団としての機能や構成員にとっての親和性を共通してもっている。移民社会相互の異同を明らかにし、移民社会における人々の結合の必要条件を解明する。国家や超国家的な宗教的紐帯が背景として存在する下で、移民社会のような中間集団が、相互に、あるいは国家(ホスト社会)/移民社会/個人の各レベル間で調和し薫発する要件を明らかにする。

3. 研究の方法

研究分担者による国外フィールドワークおよび現地での知見をもちよってのワークショップを平成24~27年度の4年間にわたって毎年実施した。フィールドワークは人びとの移動の目的地で実施するだけでなく、かれらの故地を訪ねて実施した。ワークショップは毎年度複数回にわたって開催して、分担者以外も参加して広く意見交換をおこなった。

毎年の研究を継続する中で、プロジェクト2年目の2012年に立教大学 平和・コミュニティ研究機構(以下、平・コミ)が主催する国際シンポジウム(後述)に参加し、2013年と2014年にそれぞれソウルと台北で本研究プロジェクトで主催する国際シンポジウムを実施した。

4. 研究成果

移民コミュニティの形成において 1) 中間団体の存在と、2) 移住先にならずしも定着しない頻繁な移動者の存在が重要であることが分かった。国家間、あるいは国家連合間でのマクロな議論になりがちな移民の動きに、実際にはおおきな影響力を与えているミクロな個人の事情、あるいは個人が集合する中間団体での調和とコンフリクトにも注目する必要があることを1)ではあらためて示した。

2) は従来はほとんど注目されていなかった存在である。交易人は買い出し先の都市に一度の訪問では数日～数週間しか滞在しないが、年間に複数回訪問している。彼らが立ち寄る都市には、レストラン、交易を助けるエージェント、美容室などがあり、同地域から来た者の結節点となりコミュニティが形成されている。結節点となる固定的に居住する人々については研究も進んでいる。一方、彼らよりも2桁も人数が多い人々が頻繁に移動しながらコミュニティを出入りしているにもかかわらず注目されていない。こうした頻繁な移動者(frequent traveler, FT) に注目することであらたな移民コミュニティ象を提示することができる。つまり、少数の固定メンバーと多数のFT からなり、メンバーはつねに入れ替わりながらも、その輪郭は明確な、一種の動的平衡を保った社会である。

上記のような理論的な枠組みへの提案だけでなく、個別の知見も蓄積が進んだ。具体的には、ベトナムからの移住先として、旧東側諸国も大きな目的地であったこと。ソニンケ人の商活動においては大規模化を目指す資本主義の論理とは異なる行動をとること。華人の国際的な移動において複数の要因の間で葛藤があること、などがそれぞれ報告されている。また時系列では、2008年の北京オリンピック、2010年の広州でのアジア大会、2006年のシドニーでのボーンアゲイン協会設立などがエポックとして注目できることも分かった。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文](計17件)

- 1) 栗田和明 2015 「人の移動と平和コミュニティ研究の方向性 立教大学での10年」『平和・コミュニティ研究』3:2-11 査読無
- 2) 杜国慶 2015 「青田と方正の比較にみる僑郷都市機能の変化と差異」『立命館国際研究』27-4: 印刷中 査読無
- 3) 杜国慶 2014 「日本における帰化人口分布の時空間変化に関する考察」『立教大学観光学部紀要』6: 74-88 査読無
- 4) 市川 誠 2014 「フィリピン人移住者にとっての教会の機能 東京とシドニーの事例の比較から」『キリスト教育研究』31:1-15 査読有
- 5) MIZUKAMI, Tetsuo and Y. Matsumoto 2014 An Overview of the 2013 international symposium “Urban space, culture and community” *Global Urban Studies* 7:1-3 査読有
- 6) 山下清海、小木裕文、張貴民、杜国慶 2013 「ハルビン市方正県の在日新華僑の僑郷としての発展」『地理空間』6(2):91-116 査読有
- 7) 池俊介、杜国慶、白坂蕃、張貴民 2013 「中国雲南省拉市海周辺における乗馬観光の展開」E-journal GEO 8(2):208-222 査読有
- 8) 市川哲、奈倉京子、小河久志 2013 「食文化から見る中国系移民の現地化に関する比較民族誌的研究 <上火・下火> 概念を手掛かりに」『アサヒビール学術研究財団紀要』29:51-57 査読無
- 9) 市川哲、フォン・ホンロン、サセティット・シモンケオ、チャトオシカ・ラナワカ 2013 「世界遺産のインパクトをどう考えるか」『交流文化』13:28-37 査読無
- 10) 市川誠 2013 「フィリピンの教科書記述における外界からの影響」『文化接触の想像

力』1:219-236 査読無

11) 水上 徹男 2012 Past and present situations of Chinese schools in Yokohama. 『グローバル都市研究』5:83-93 査読無

12) 市川 哲 2012 「移民にとっての公共圏はどのようにトランスナショナルなのか? パプアニューギニア華人社会における多言語状況」 『多文化的公共圏の重層性 太平洋のフィールドワークからの視点』1:170-188 査読有

13) 市川 哲 2012 「混血から見るグローカリゼーション パプアニューギニアにおける華人の土着化の諸相」 『グローカリゼーションとオセアニアの人類学』1:97-122 査読無

14) 市川 哲 2012 「移住経験が生み出すコミュニティ、移住経験が変容させるアソシエーション オーストラリア都市部に居住するパプアニューギニア華人」 『実践としてのコミュニティ 移動・国家・運動』1:99-124 査読有

15) 杜国慶 2012 「浙江省温州近郊青田県の僑郷としての変容 日本老華僑の僑郷からヨーロッパ新華僑の僑郷へ」 『地理空間』5-1:1-14 査読有

〔学会発表〕(計 23 件)

1) MIZUKAMI, Tetsuo Ethnic Schools in Japan: Their Characteristics of the Yokohama District, The International symposium on Global Migration and Transnational Activities in the Pacific Rim 2014年10月15日 国立台湾大学(台北市、台湾)

2) 三島 禎子 「セネガルの都市化」 Nelson Mandela Memorial Symposium: South Africa Cities Today. 2014年10月11日 国立民族学博物館(大阪府吹田市)

3) MIZUKAMI, Tetsuo The Effects of the Ethnic Business Enterprise on Local

Shopping Mall in Central Tokyo, International Sociological Association)World Congress of Sociology(招待講演)2014年7月13日 Pacifico Yokohama (神奈川県横浜市)

4) 三島 禎子 「財の形成と継承に関する文化人類学的考察へ向けて ソニンケ民族の移動と経済活動から」 『国際シンポジウム「個人・家族・国家のゆくえ 文化人類学と人口学からの学際的アプローチ」』(招待講演)2014年3月1日 国立民族学博物館(大阪府吹田市)

5) ICHIKAWA, Tetsu Commodity chain and ethnic network: Edible bird's nest business in Sarawak, Malaysia. American anthropological association. 2013年12月20日 Chicago Hilton Hotel(シカゴ、アメリカ)

6) 市川 哲 「ルーツ・シーキングからルーツ・ツーリズムへ パプア・ニューギニア華人にとっての僑郷と中国」 日本華僑華人学会 2013年12月8日 立教大学(東京都豊島区)

7) ICHIKAWA, Tetsu From cave to farm house: Edible bird's nest business in Sarawak, Malaysia. Japanese society for studying Chinese overseas 2013年11月17日 Keio University(東京都港区)

8) KURITA, Kazuaki Africans in China and Thailand: Tanzanians' informal commercial activities spreading over Asia and Africa. International symposium on Socio-Cultural Changes in Global Societies. 2013年10月21日 University of Seoul(ソウル、韓国)

9) MIZUKAMI, Tetsuo The Character of ethnic communities in Tokyo: The Case of the Ikebukuro District. International symposium on Socio-Cultural Changes in Global Societies. 2013年10月21日 University of Seoul(ソウル、韓国)

10) ファーラー、グラシア From Middle kingdom to inland empire: The International migration of the wealthy Chinese. International symposium on Socio-Cultural Changes in Global Societies. 2013年10月21日 University of Seoul(ソウル、韓国)

11) Du, Guoqing Spatiotemporal Analysis of naturalization in Japan. 京都国際地理学会 2013年8月4日 京都国際会館(京都府京都市)

12) 杜国慶 「在日新華僑の出身地としてのハルビン市方正県の地域性(2) 農村部を比較して」日本地理学会 2013年3月30日 立正大学(東京都品川区)

13) 杜国慶 「日本における帰化人口の分布と変化」日本地理学会 2013年3月30日 立正大学(東京都品川区)

14) 栗田和明 「アフリカ=中国の紐帯」環太平洋地域における移民コミュニティの形成6(招待講演)2013年3月16日 立教大学(東京都豊島区)

15) 市川哲 「海外華人研究と僑郷研究の運動の可能性」日本華僑華人学会 2012年12月8日 東北大学(宮城県仙台市)

16) 市川哲 「先住民との関係を通じたサラワク華人の自然環境利用とコミュニティ形成」ビントゥル省クムナ・ジュラロン水系の事例から」東南アジア学会 2012年12月4日 京都大学(京都府京都市)

17) 市川哲 Varieties of Chinese communities in a riverine system: business practice and ethnic relationship of Chinese in Bintulu District, Sarawak. International conference on "Malaysian Chinese in historical context: Interpretation and assessment. 2012年11月24日 New Era Collage(Selangor, Malaysia)

18) 杜国慶 Influence of world heritage tourism to the local area: The Case of

horse-riding sightseeing in the villages around Lashihai Lake, Lijian. IGU pre-conference symposium 2012年8月25日 Stadwald hotel(Trier, Germany)

19) 水上徹男 Directional shift of Japanese schools in Melbourne. 19th Biennial conference, Asian studies association of Australia "Knowing asia: Asian studies in an Asian century" 2012年7月12日 The University of Western Sydney(Parramatta, Australia)

20) 水上徹男 Multiculturalism in Japan: The Development of ethnicity studies of Japanese urban communities. SSK international conference(招待講演)2012年6月8日 Keimyung University(Daegu, 韓国)

21) 杜国慶 「僑郷の街づくりと都市空間的特色」中国浙江省青田県を事例として」環太平洋地域における移民コミュニティの形成3(招待講演)2012年6月2日 立教大学(東京都豊島区)

〔図書〕(計11件)

1) 三島禎子(分担執筆) 印刷中 『人々がつなぐ世界史』 ミネルヴァ書房

2) Liu-Farrer, Gracia 印刷中 *The Emergence of International dimensions in East Asian higher education.* Springer.

3) 栗田和明(共編)2015 『タンザニアを知るための60章』明石書店 354頁

4) 栗田和明(編)2015 『環太平洋地域における移住者コミュニティの動態の比較研究 近年の変遷に注目して』立教大学平和・コミュニティ研究機構 130頁

5) 水上徹男、松本康、高木恒一、和田清美、丸山真央、三田知実、張元皓、任雪飛、西山志保、山下祐介 2014 『都市社会学・入門』有斐閣311(48-163)

6) 杜国慶、小木裕文、張貴民、松村公明、山下清海、尹秀一 2014 『改革開放後の中国僑郷 在

日老華僑・新華僑の出身地の変容 』明石書店
278(32-57, 84-117, 141-180, 182-220)

7) Du, Guoqing 2014 *International Migrants in Japan: Contributions in an Era of Population Decline*. Trans Pacific Press. 306pp.

8) MISHIMA, Teiko et Yves Charbit(eds.) 2014 *Questions de migrations et de sant & eacute; en Afrique sub-saharienne*. Harmatan, Paris 306pp.

9) 片山美由紀、小口孝司、花井友美、高井典子、中村哲、山口一美、橋本俊哉、内田彩、田村裕希、杜国慶、山口有次 2013 『観光学全集 第4巻 観光行動論』原書房 227(187-199)

10) 杜国慶、Kagermeier, Andreas & Jarkko Saarinen(eds.) 2013 *Transforming and managing destinations: Tourism and leisure in a time of global change and risks*. Verlag Meta GIS-Systems, Mannheim 380(243-262)

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

栗田 和明 (KURITA, Kazuaki)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：10257157

(2) 研究分担者

三島 禎子 (MISHIMA Teiko)
国立民族学博物館・民族社会研究部・准教授
研究者番号：20280604

杜 国慶 (DU, Guoqing)
立教大学・観光学部・教授
研究者番号：40350300

市川 誠 (ICHIKAWA, Makoto)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：60308088

水上 徹男 (MIZUKAMI, Tetsuo)
立教大学・社会学部・教授
研究者番号：70239226

ファーラー, グラシア (FARRER, Gracia)
早稲田大学・アジア太平洋研究科・教授
研究者番号：70436062

大橋 健一 (OOHASHI, Kenichi)

立教大学・観光学部・教授
研究者番号：70269281

(3) 連携研究者

市川 哲 (ICHIKAWA, Tetsu)
立教大学・観光学部・助教
研究者番号：40435540